

前回の振り返り(各委員から出た意見)

(1)子どもの意見表明・参加について

- 中野区の子ども会議(ハイティーン会議)は中高生年代を対象としているので、小学生向けの子どもの会議も検討できないか。
- 子どもの意見を聴いた後は、単なる結果や決定の理由だけをフィードバックするのではなく、大人が悩んだ過程や決定するまでのプロセスを伝えたり、一緒にどうしたら良いかを考えたり悩んだりする場があっても良いのではないかと思う。
→子どもの意見表明・参加では、子どもと大人の対話が非常に重要である。
- 子どもの意見を反映するという姿勢をきちんと見せることが大事である。踏み込んだ書き方で、言葉として打ち出すべきである。
- 「大人対子ども」になるのではなく、「子ども大人も区民であり、一緒にまちをつくっている」ということをもう少し押し出したい。
→答申の「はじめに」の中で打ち出していく。子どもはまちづくりのパートナーである。
→「子どもも区民である」ということに関連して、子ども会議は、子どもたちの代表として、区長や区に区民として意見を伝えることができる重要な場である。
- 子ども相談室の愛称・キャラクター選定のワークショップは、何度も同じメンバー・サポートの大学生たちで繰り返し行ったことで、子どもたちも信頼して生き生きと意見を出せたのかなと感じた。子どもたちが参加している姿を見て、やはり子どもの意見を丁寧に聴くには、可能であれば回数を重ねて信頼関係をつくる場を用意できると良いと感じた。
→「対話を大事にする」というところともつながる。また、子ども参加の場面を大人が見ることで、子どもの意見表明・参加の意義を実感として理解・認識できる。
- 子どもの権利委員会は、学校や、子どもの声を聴く大人の支援をしたり、サポートになるようなものを提供したりできる機関でありたい。

(2)推進計画及び子どもに関する取組の評価・検証について

- 評価・検証においても対話を大事にすべきである。第1期権利委員会では、学校に子どもの権利が息づいているかどうかという視点を大事にして、例えば評価に当たっての対話に学校という柱を入れてみることも考えられる。
→学校は地域の中にあり、地域も学校をつくっている。子どもと関わっている地域の方たちにもヒアリングを行った方が良いと思う。

- 子どもオンブズマンとの連携や役割分担も考える必要がある。子どもオンブズマンがどういったことをキャッチしていて、どのように考えているかということを押さえた上で、権利委員会における提言を行う必要がある。
- 子ども・子育て会議で行われる評価・検証とも連動していく必要がある。子ども・子育て会議では、計画全体の評価・検証がなされるが、子どもの権利委員会では、計画の目標Ⅰが中心とはなるが、全体を見て評価・検証を行う必要がある。
- 評価・検証にあたっては、「生きる権利」、「育つ権利」、「守られる権利」、「参加できる権利」の4つの軸に沿って評価する方法も考えられる。
- 評価・検証におけるヒアリングにあたっては、テーマを設定して集中的に話を聴くというやり方も考えられる。

(3)その他

- 一目で分かりやすいデザインやレイアウトで答申を作ると良いと思う。